



## 併願について

### 1 「併願校選びにおいて一番大切なのは何か」

併願校選びで一番大切なのは第1志望に合格するため、積極的に併願することである。第1志望に合格するための併願作戦と言っても過言ではない。そのことを念頭に置いて併願校を決めよう。

### 2 「併願プラン完成までの流れ」

#### ① 学べる内容で併願校を探す(これが最重要である)

併願受験とはいえ、もし、その学校に入学することになれば4年間学ぶ学校になります。学びたい内容の講義はないけれど、おそらく入学できるから受験しようとは考えないでください。そのためには大学で何を学ぶかを知る必要があります。国際系を例にとると、早稲田大学国際教養学部では、授業のほとんどが英語で行われますし、1年間の留学が必要です。早稲田大学1つを例にしてもわかるように大学によって特徴があります。大学によって学ぶ環境や学生への要求水準も大きく異なります。学部・学科の名称だけで併願校を決めずに、募集要項や、パンフレット、シラバスできちんと調べておきましょう。

#### ② 入試科目・難易度・出題傾向を検討し候補を絞る

併願によって入試科目が数多く増えすぎると、学習効率も悪くなります。できるだけ第1志望校の入試科目で受験できる大学を選びたいものです。さらに、苦手得意などの分野別の出題傾向が解っていて考慮できれば更に良いです。

#### ③ 入試方式を調べて日程にムリがないよう受験方法を考える

連続日程での受験は、なるべく2日までにしたい。志望校の試験日が重なるようなら試験日選択制や地方入試を上手に活用して欲しい。受験の順番は、難易度が本命の受験日に近づくにつれて「低→高」とスケジュールを立てられればベストです。国立私立の併願では、私立大学入試から国公立大学の2次試験まで間隔があきすぎる場合があります。緊張感が途切れてしまわないよう、注意して、日程も考慮の上で併願校を決定してください。

### 3 「併願校数と併願パターンは」

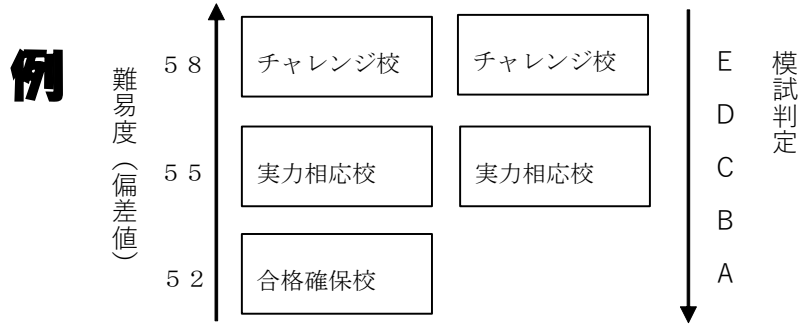
受験による体力消耗や合否結果のメンタル面へのデメリット等を考慮すると受験校数の目安は4校から6校としたい。(ただし、共通テスト利用は含まない。)

同難易度の大学ばかりを受けた場合、全部不合格となる可能性もある。したがって、実力相応校・チャレンジ校・合格確保校の3段階に分類して併願校を選定していくのが望ましいと考える。実力相応校とは、模試判定でCを中心にB~Dの出ている大学。Dというと低い気がするかもしれませんが、競争率の高い大学入試では、少なからず受験生がC、D判定で合格します。合格可能性30%のD判定校でも4校受験すれば、少なくとも1校に合格する確率は1-(0.7)の4乗=0.76つまり76%もあります。(あくまでも計算上ですが。)

E判定中心の大学や、競争率が低いのにD判定が出ている大学はチャレンジ校となります。ただし、Dからかけ離れているE判定の大学を何校受けても、合格は困難です。合格確保したい大学は、A判定はもちろん、B判定でも2校受ければ十分でしょう。

以上3段階の併願校は難易度でいえば、実力相応校とチャレンジ校との間は偏差値3から5、合格確保校との間は偏差値3から5程度の開きをおくのがよいでしょう。

ただし、成績推移による併願校選択・調整も必要です。成績推移が「上昇中」の人はチャレンジ校を、「下降中」の人は合格確保校をそれぞれ増やすとよいでしょう。「不安定」な人は、よく先生と相談してください。浪人覚悟で目標を高く持ちたい人も、現役時に1校でも合格した自信はとても大きいので、安全校を受けることを強く勧めます（手続きしなければ良い）。よく考えて多くの人に相談して、自分の納得できる大学を受験してください。

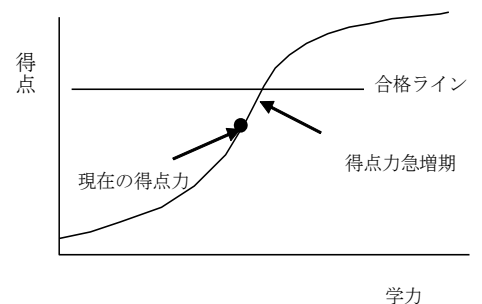


## あきらめるな 現役の得点力は、これから急に伸びる

現役生は、学び続けることで、ぐんぐん学力が伸びていきます。特に、理科・社会が伸びます。ベネッセの資料によると11月のマーク模試から共通テスト本番まで英数国の得点率の伸びは10%に届かない事例が多いが、理科社会は20%近く伸びるケースもあるそうです。甘えずに、あきらめずに、あせらずに勉強を続けてもらいたいものです。個人レベルで考えると、それぞれ補強できる点があるはずですが、この時期、偏差値や合格可能性が気になる所ですが、素点や弱点分野に注目し、補強できる点をコツコツ洗い出して欲しいと思います。その心がけを忘れなければ、現役生は試験当日まで伸びていきます。自分を信じてあきらめずに併願受験することが大切です。



以前も書きましたが入試には総合的な力が必要です。本格的に受験勉強を始めても、それが実際に得点として表れてくるのは約3ヶ月後とされています。模試の結果でわかった弱点と、未習な科目・範囲をこれから集中的に勉強するとよいでしょう。正しい方法で勉強を続けていれば、必ず成績は上昇することを信じて、最後まで頑張してほしいと思います。



浪人生を追い抜くのは試験当日でも遅くはありません。我々は何度も何度も逆転合格を目撃しています。昨年は5人の先輩が国立公立入試後期でE判定からの逆転合格をしました。今年も先輩に続け。武南生。

総合的な探究の時間（3年生11月）に「受験カレンダーの作成」を行います。少しずつ併願校の候補を増やしておきましょう。